

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
「心晴れ晴れ たくましく 学び伸びゆく 晴田っ子」の育成 ～地域に根ざし、世界につながれ、晴田っ子！～	①人権が尊重される学習活動を創造する。 ②人権が尊重される集団づくりを図る。 ③自己肯定感を高める取り組みを充実させる。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 人権が尊重される学習活動を創造する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	外国語科・外国語活動の指導力向上	・外国語活動で「聞くこと」、「話すこと」の言語活動に主体的に取り組んでいる児童を85%以上とする。	・新学習指導要領を先行実施する。 「1・2年生の外国語活動」10時間 「3・4年生の外国語活動」35時間 「5・6年生の外国語活動」70時間 ・English Week、各所の英語表示等の校内環境整備を図る。	研究推進委員会 外国語教育部	山下西村 進藤
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革	校務の効率化 職員の意識改革	・年間平均で月45時間の勤務時間を越えないようにする。	・毎週火曜日を定時退勤日(18時)とし、緊急時以外は課後に会議等を行わない。 ・ICT支援員を活用し、校務用サーバの整理と校務の一層の電子化を進める。 ・休業中に全職員で業務改善策を検討し、ボトムアップ方式での取り組みを推進していく。	労働衛生委員会	校長 教頭 教務
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着と活用力の向上のための指導方法の改善	・12月の学習状況調査で、昨年度12月調査の達成率を0.05ポイント上回る。	・朝のスキルタイムに級外職員も入り、国語と算数の基礎学力向上を図る。 ・学習状況調査結果をきめ細やかに分析し、本校児童の課題に応じた指導法の改善を図る。 ・育友会と連携し、家庭教育週間の取り組みをもとに家庭学習の充実を図る。	研究推進委員会	教務 西村
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を70%以上にする。	・全ての教科、学校行事等、さらに地域活動を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	研究推進委員会	教頭 教務
② 人権が尊重される集団づくりを図る。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	○自主的・実践的な態度の育成	学級活動と児童会活動の充実 異学年交流活動の推進	・学校での生活がより豊かな集団生活となるように、出番・役割・称賛を合い言葉に、集団活動の充実を図る。	・学級活動や集会活動、縦割り班活動などでの感想交流や振り返りカードで、自分や友達の良さを見つけさせ、活動意欲を高める。 ・縦割り班で、上級生がリーダーシップを発揮できる清掃活動や共遊活動を実施する。	仲間づくり	居石 栗下
学校運営	○地域、保護者との連携による体験活動の充実	晴田地区青少年健全育成会議、育友会との連携強化	・土曜教室参加児童を増やし、異学年や地域の方との交流を図る。 ・保護者や青少年の方々と連携した学習活動を実施する。	・学校便りや育友会カレンダー等に青少年や育友会活動を位置づけ、子どもの参加意識を高める。 ・教職員も育友会活動、青少年活動に年2回は参加し、保護者や地域の方々との相互理解を図る。	開かれた学校づくり	教頭
③ 自己肯定感を高める取り組みを充実させる。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	人権教育、道徳教育の充実	・人権教室や人権集会後のアンケートで、人権意識が高まったとする児童の割合を80%以上とする。 ・深く考え議論する道徳の授業が効果的に実践できる全体計画、年間指導計画を作成する。	・人権学習・人権フェスタ等への保護者や地域の方への参加を呼びかけ、学校での取り組みを知っていただくと共に、家庭や地域と連携した取り組みを進める。 ・人権学習や道徳の授業で、書く活動や話し合う活動で深く考えさせたり、多様な考えに気づかせたりする。	自分づくり	川橋 大坪
教育活動	●いじめの問題への対応	生徒指導・教育相談の充実	・子ども一人ひとりに寄り添い、いじめの未然防止、早期発見・早期解消に努め、学校のいじめ防止対策への保護者の満足度を90%以上とする。	・毎月のアンケート、年2回の教育相談週間で一人ひとりの子どもをしっかりと把握し、問題には即時対応する。 ・ケース会議を随時開催し、その内容を全職員で共有し、学校全体で共通した取り組みを行う。	いじめ防止対策委員会	陣内 熊谷 川橋
学校運営	○特別支援教育の充実	特別支援教育体制の確立	・晴田スタンダードをもとに全職員が連携して取り組む。 ・特別な支援が必要な子どもを早期発見し、組織的な支援を行う。	・晴田スタンダードを共通理解して、全職員で取り組む。 ・特別支援教育の研修会を通して、職員の理解を深め、外部専門機関の助言をもとに全職員で共通理解を図って支援する。	教育支援委員会	石井 永竹 田
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食喫食率を95%以上にする。	・年2回の晴田っ子アンケートで把握した朝食喫食率をもとに、学級指導や家庭科等で食の大切さを考えさせる。 ・1年生保護者を対象とした給食試食会、保健便りや学校便り等で食の大切さへの保護者の理解を深める。	仲間づくり	西村 教務

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目